

現在の社会を認識する

人文組織工学の社会論は、変化を見だし、変化を機会として見だすために構築する。

社会の認識は、仕事をしている者にとっては不可欠である。社会を理解できずして、如何なる成果もあげられない。人も組織も社会で活動し、社会で成果をあげる。組織内であがった成果が、同等以上に社会であがらなければ、仕事をしているとは言えない。社内での成果は、成果とは言えず、単なる結果である。もしかしたら、社会にとっての浪費であるかもしれないのだ。

まず、社会を認識し、社会の変化をキャッチし、仕事の機会にして成果をあげる。そのために、社会を視る。

社会学と言われる範疇に入り込む予定はない。関わったとしても少し割り込むぐらいだろう。社会の制度を言及する時はある。制度と個人及び組織の活動に関係するとして視ていく。現象に重点をおき、社会変化を見いだそうとする。

- 「金の移動の自由」が、金融と実経済の格差を広げている。金の移動の自由から始まった。実経済と金融市場との関わりが大きな関心事になっていく。格差が大きくなりすぎると、何らかのコントロールが始まる。
- 人の移動、モノの移動、情報、知識の移動の自由が知識の活性化を激しくした。社会変化を加速させる原動力になっていると考えられる。
- NPOなどが増えている。企業の社会事業化が始まっている。企業は、企業の特異を持って、社会の問題を解決しなくてはならなくなった。知識の発達と伴って、産業構造が変化し始めている。
- 高度な知識社会になり、知識生産性が問われている。専門知識の多様化によって、雇用形態にも変化が起こっている。高齢化が、産業構造、雇用形態にも影響を与えている。

現在は変化の時である。社会の状況を見つめなければならない。



「バランスを保つ」は常に注意しなければならない。

人類で初めての事柄が多く起こっている

